

令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

士別市の体力等の分析

【令和5年3月13日 士別市教育委員会（学校教育課）】

令和4年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、士別市では令和4年4月から7月までの期間で、市内全ての小・中学校において実施しました。

このたび、スポーツ庁および北海道教育委員会から調査結果概要の資料提供を受け、今後の児童生徒の体力・運動能力等の向上・改善に役立てるため、士別市教育委員会として結果分析の概要を次のようにまとめました。

1 調査の目的

士別市教育委員会は、本調査の目的からその意義を認め、定められた方法にしたがって調査を実施しました。国が示した本調査の目的は、次のとおりです。

- 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査 報告書」より引用

2 本調査実施に関する士別市教育委員会の基本的な考え方

士別市教育委員会は、本調査の目的や意義のもと、これまでの経過も踏まえ、定められた方法にしたがって、対象児童生徒の在籍する市内全ての小・中学校で調査を実施しました。今回の調査に関わっては、次の考え方をもとに結果分析等について公表します。

- (1) 本調査によって測定できるのは、体力・運動能力における特定の分野であり、学校での教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえ、学校の序列化や過度な競争につながらないように十分配慮した上で、士別市全体として、実技の平均値、質問紙調査を含めた概略的な結果を公表します。

(2) 本市教育委員会および学校は、本調査結果をもとに、児童生徒の体力・運動能力や運動習慣の状況、課題などを把握・検証し、教育活動の充実・発展のために積極的に活用します。

3 調査の実施期間

令和4（2022）年4月から7月末までの期間で実施

4 調査対象

- (1) 小学校（6校） 5年生
- (2) 中学校（4校） 2年生

5 調査内容

(1) 実技に関する調査（小・中学校で各8種目）

【小学校】 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

【中学校】 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

(2) 質問紙調査

- ① 児童生徒に対する運動習慣、生活習慣等に関する調査
- ② 学校に対する児童生徒の体力・運動能力等の向上に係る取組に関する調査

6 本市の実施状況（児童生徒数は参加種目の最多人数）

小学校			中学校			総数		
学校	児童数（人）		学校	生徒数（人）		学校	児童生徒数（人）	
6校	男子	59	4校	男子	60	10校	男子	119
	女子	58		女子	53		女子	111
	合計	117		合計	113		合計	230

7 実技に関する調査の結果（数値は平均値）

* 全国平均値を上回る値は青色で、下回る値は赤色で示しました。「R3土別」は令和3年度に実施された前回の調査結果で、参考値として示したものです。その際、令和3年度の全国平均値を上回る値は青色で、下回る値は赤色で示しました。

* 各数値はスポーツ庁から提供されたCDデータにより作成しています。

(1)握力 (kg)

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	16.21	16.10	28.99	23.21
北海道	<u>17.15</u>	<u>16.90</u>	<u>29.59</u>	<u>22.93</u>
士別市	<u>17.80</u>	<u>16.71</u>	<u>30.65</u>	<u>24.19</u>
R3士別	16.22	<u>14.98</u>	<u>32.18</u>	<u>24.54</u>

(2)上体起こし (回)

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	18.86	17.97	25.74	21.67
北海道	<u>18.72</u>	<u>17.93</u>	<u>25.31</u>	<u>20.69</u>
士別市	<u>19.66</u>	<u>18.57</u>	<u>23.35</u>	<u>20.42</u>
R3士別	<u>20.98</u>	<u>19.06</u>	<u>27.44</u>	<u>24.86</u>

(3)長座体前屈 (cm)

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	33.79	38.18	43.87	46.07
北海道	<u>34.15</u>	<u>38.14</u>	<u>42.33</u>	<u>44.62</u>
士別市	<u>31.86</u>	<u>38.12</u>	<u>41.98</u>	<u>45.26</u>
R3士別	<u>32.16</u>	<u>35.27</u>	<u>46.68</u>	<u>48.92</u>

(4)反復横とび (点)

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	40.36	38.66	51.05	45.81
北海道	<u>41.46</u>	<u>39.95</u>	<u>49.70</u>	<u>44.33</u>
士別市	<u>39.78</u>	<u>40.72</u>	<u>49.45</u>	<u>45.83</u>
R3士別	<u>42.08</u>	<u>41.67</u>	<u>51.88</u>	<u>45.50</u>

(5)20mシャトルラン (回)

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	45.92	36.97	78.07	51.60
北海道	<u>43.92</u>	<u>36.00</u>	<u>73.63</u>	<u>46.94</u>
士別市	<u>46.75</u>	<u>44.78</u>	<u>64.82</u>	<u>45.26</u>
R3士別	<u>46.34</u>	<u>36.33</u>	<u>68.50</u>	<u>47.30</u>

(6)50m走 (タイム：秒)

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	9.53	9.70	8.06	8.96
北海道	<u>9.85</u>	<u>9.94</u>	<u>8.28</u>	<u>9.19</u>
士別市	<u>10.04</u>	<u>10.24</u>	<u>8.16</u>	<u>8.97</u>
R3士別	<u>9.82</u>	<u>9.68</u>	<u>8.03</u>	<u>8.80</u>

(7)立ち幅とび (cm)

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	150.83	144.55	196.89	167.04
北海道	<u>151.15</u>	<u>145.16</u>	<u>193.37</u>	<u>162.10</u>
士別市	<u>157.56</u>	<u>151.72</u>	<u>184.42</u>	<u>166.40</u>
R3士別	<u>155.30</u>	<u>149.98</u>	<u>201.01</u>	<u>173.23</u>

(8)ソフトボール投げ・ハンドボール投げ (m)

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	20.31	13.17	20.28	12.45
北海道	<u>20.73</u>	<u>13.90</u>	<u>19.92</u>	<u>12.16</u>
士別市	<u>21.64</u>	<u>14.21</u>	<u>18.40</u>	<u>11.49</u>
R3士別	<u>25.46</u>	<u>14.40</u>	<u>19.36</u>	<u>12.87</u>

※体力合計点 (点)

※ 8種目の記録を点数化 (80点満点)

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	52.28	54.31	41.04	47.42
北海道	<u>52.23</u>	<u>54.48</u>	<u>39.63</u>	<u>44.85</u>
士別市	<u>52.37</u>	<u>55.66</u>	<u>37.17</u>	<u>45.42</u>
R3士別	<u>54.66</u>	<u>56.57</u>	<u>43.10</u>	<u>50.43</u>

【T得点について】

T得点とは回数やm、秒などの単位等が異なる実技種目の調査結果を全国平均値を「50」として、それぞれの種目を比較するために数値化したものです。50を超える場合は全国平均値を上回り、超えない場合は下回ることを表しています。

* 参考資料として実技調査のレーダーチャートをP24～P28に掲載

8 士別市の実技に関する調査結果の概要

【小学5年生】

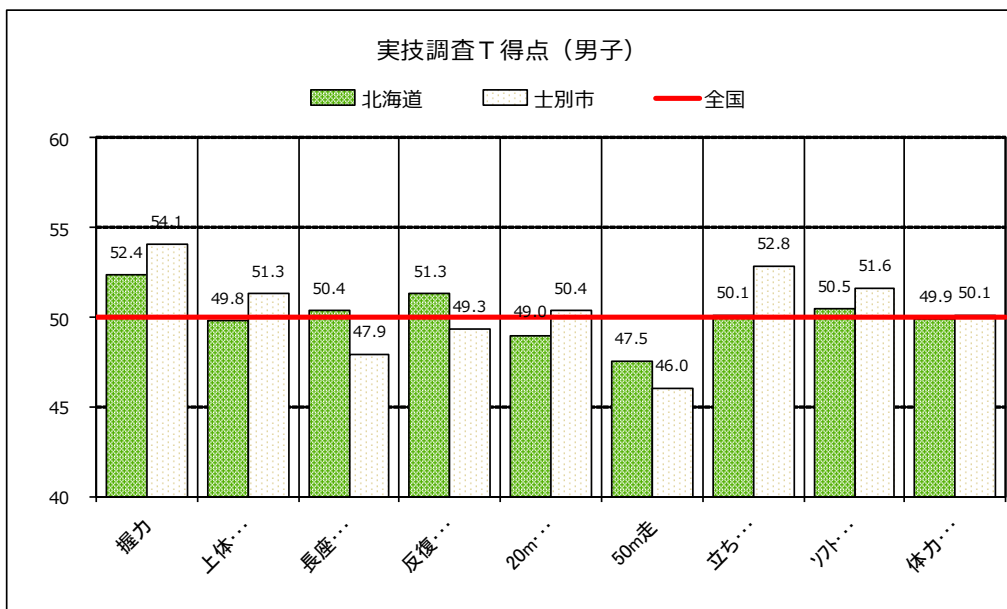
小学男子では、「握力」「上体起こし」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の5種目で全国平均値を上回るとともに、「体力合計点」において全国平均値をやや上回りました。

下に示した小学男子の「実技調査T得点」のグラフで、全国平均値（赤線）を超えている種目と超えていない種目を確認することができます。また、北海道平均値と士別市の関係については、棒グラフにおいて比較でき、「握力」「上体起こし」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」「体力合計点」において士別市が上回っています。「50m走」は前回調査に引き続き全国平均値、北海道平均値ともに下回りました。

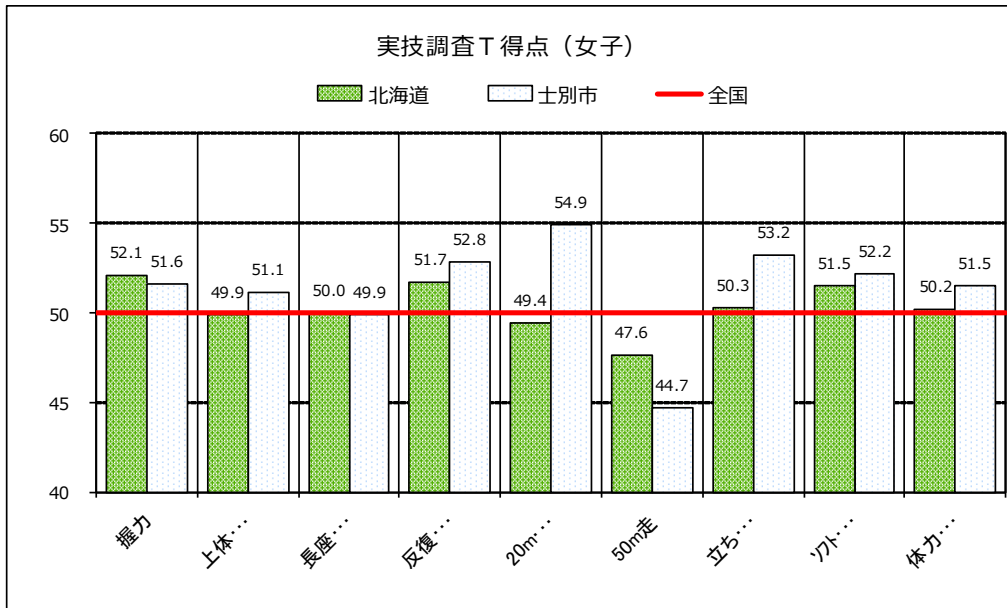
小学女子では、「握力」「上体起こし」「反復横とび」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の6種目で全国平均値を上回るとともに、「体力合計点」において全国平均値を上回りました。

小学女子の「実技調査T得点」のグラフから、多くの種目が全国平均値（赤線）を超えるなか、「長座体前屈」はほぼ全国平均値と等しく、「50m走」が他の種目に比べ下回っていることが分かります。また、北海道平均値と士別市の関係については、棒グラフから「上体起こし」「反復横とび」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」「体力合計点」において士別市が上回っていることがわかります。「50m走」については全国平均値、北海道平均値をとともに下回りました。

令和4年度 小学5年男子のT得点



令和4年度 小学5年女子のT得点



【総合評価の基準（小学校・中学校）について】

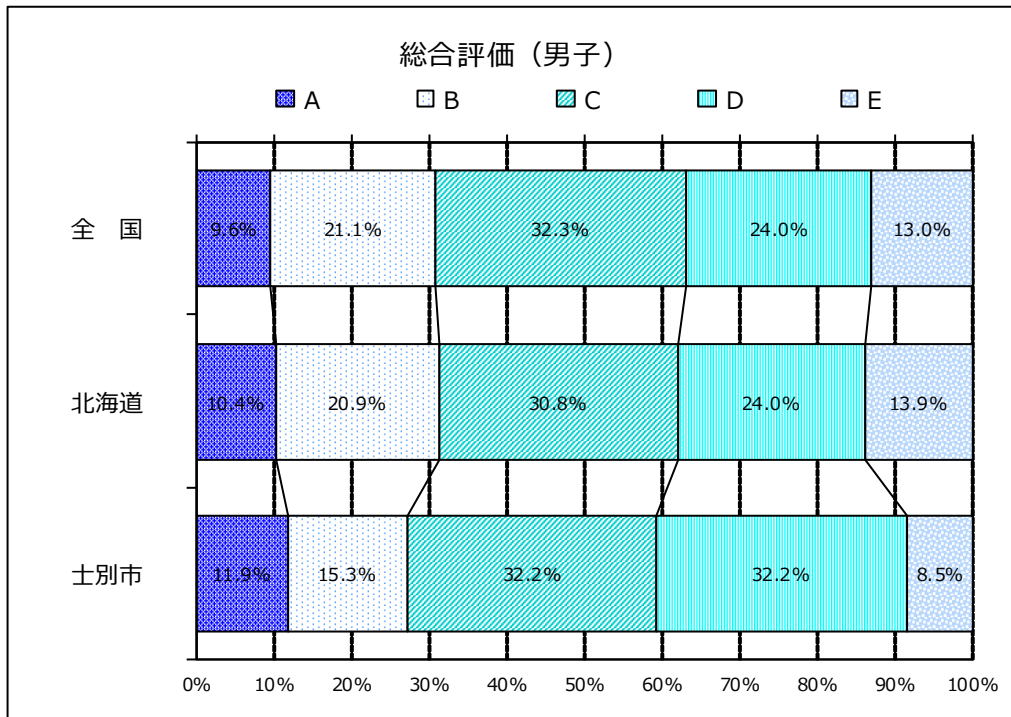
総合評価は、各種目の記録を10段階に分け、10点満点とし、その合計8種目80点満点で、A～Eの5段階で評価するものです。

段階	小学校（10歳）	中学校（13歳）
A	65以上	57以上
B	58～64	47～56
C	50～57	37～46
D	42～49	27～36
E	41以下	26以下

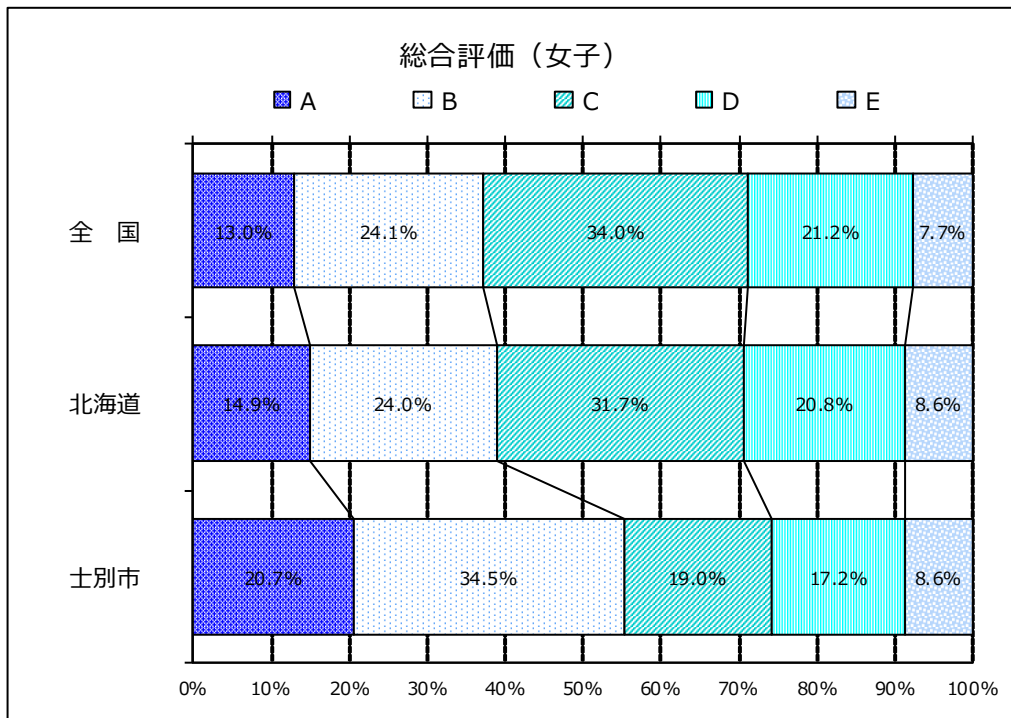
小学男子の総合評価では、全国・北海道に比較してAの割合が多いものの、AとBを合わせた割合は全国・北海道よりも少なく、CとDを合わせた割合は全体の65%程度を占め、Eの割合は全国・北海道に比較して少ない状況です。こうしたことから体力・運動能力の上位層と下位層よりも中間層が非常に多い傾向が見られます。

小学女子の総合評価では、AおよびBともに全国・北海道の割合よりも多く、AとBを合わせると全体の55%程度を占めています。またCとDの段階の児童が少なく、Eの割合は全国・北海道と同程度です。こうしたことから体力・運動能力の上位層が非常に多い傾向が見られます。

令和4年度 小学5年男子の総合評価



令和4年度 小学5年女子の総合評価



【中学2年生】

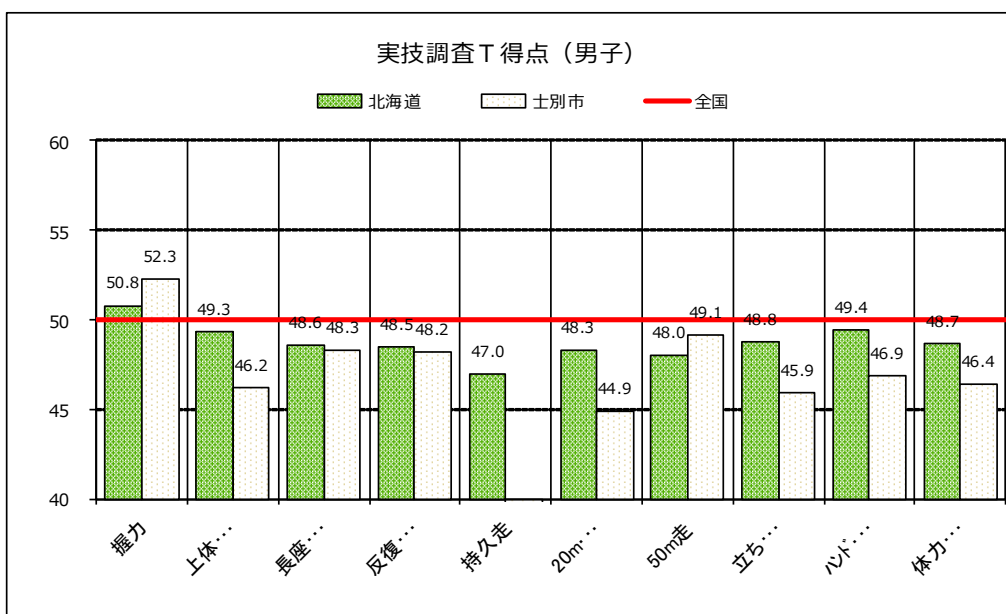
中学男子では、「握力」で全国平均値を上回りましたが、他7種目および「体力合計点」において全国平均値を下回りました。また、「握力」「50m走」で北海道平均値を上回りましたが、他6種目および「体力合計点」において北海道平均値を下回りました。

中学男子の「実技調査T得点」のグラフを見ると、全国・北海道平均値との全体的な

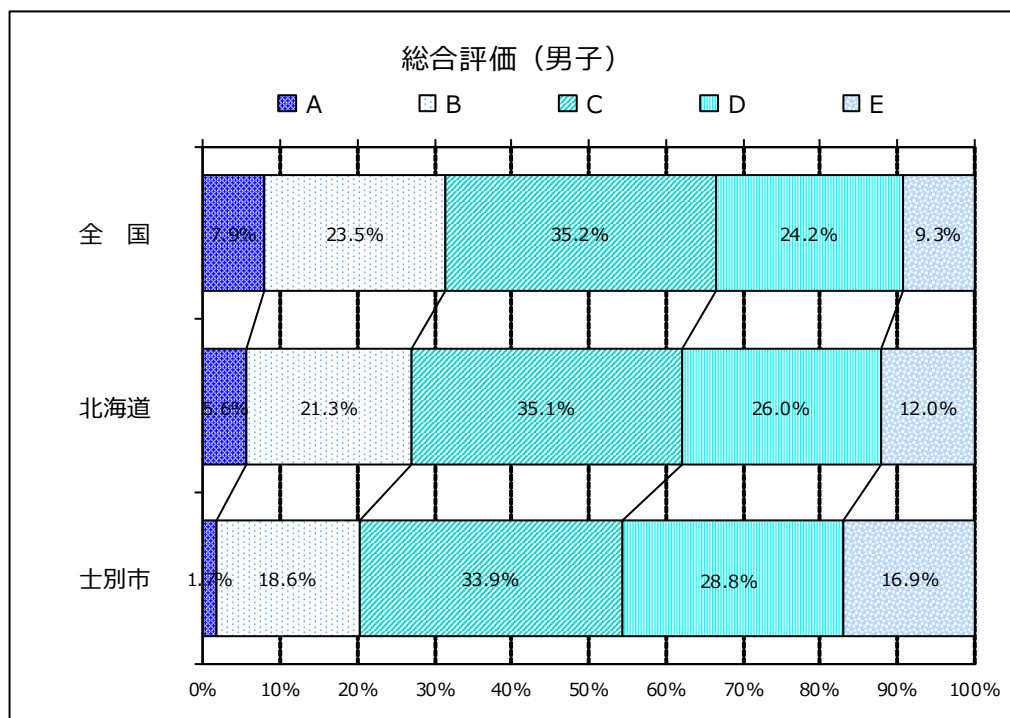
差異を視覚的に捉えることができます。

中学男子の総合評価は、Aが1.7%と非常に少ないことに加え、AとBを合わせた割合が全体の20%程度と全国・北海道に比較して少なく、CとDを合わせた割合が60%以上を占めています。またEの生徒の割合が全国・北海道よりも多く、全国・北海道に比較し、体力や運動能力の総合的な力の上位層の割合は低くなっています。

令和4年度 中学2年男子のT得点



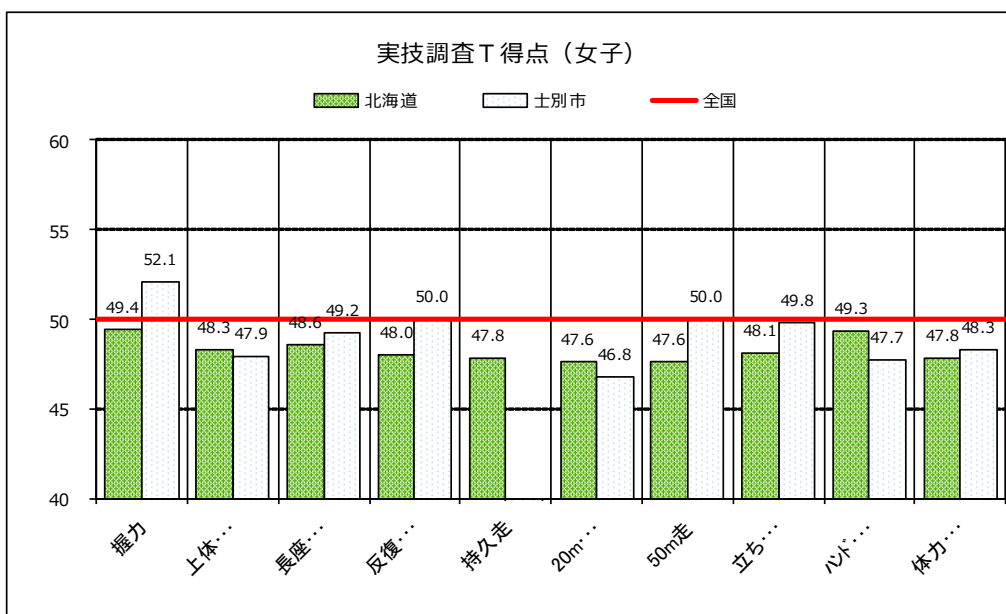
令和4年度 中学2年男子の総合評価



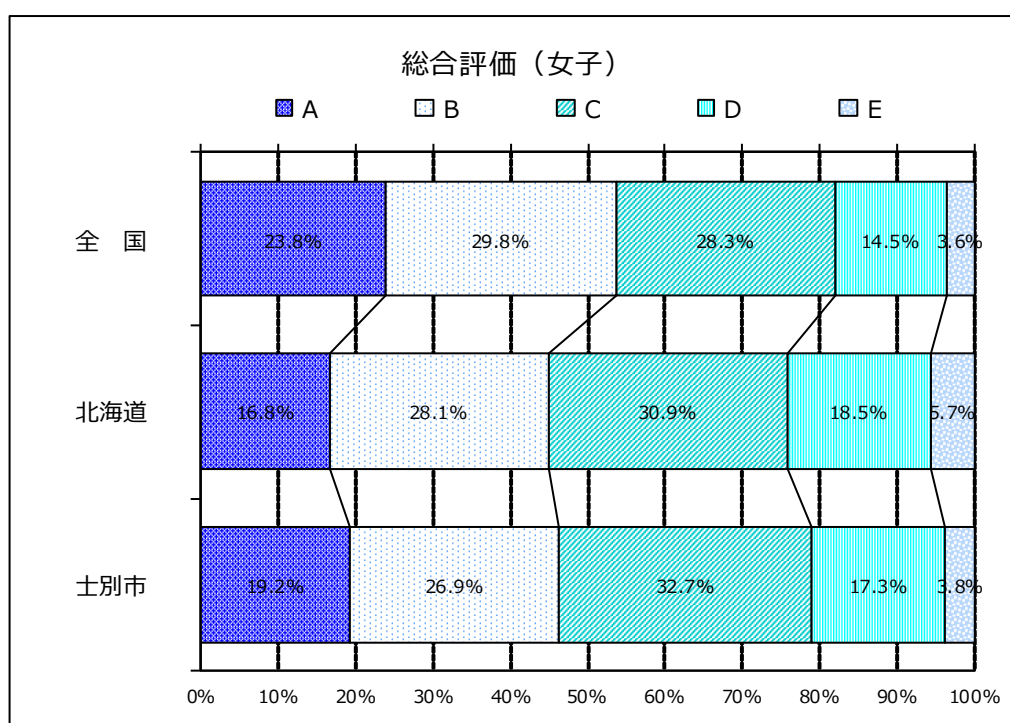
中学女子では、「握力」で全国平均値を上回り、「反復横とび」「50m走」「立ち幅とび」の3種目で全国平均値と同程度、他4種目と「体力合計点」においては下回りました。また中学女子の「実技調査T得点」のグラフのとおり、「握力」「長座体前屈」「反復横とび」「50m走」「立ち幅とび」および「体力合計点」において北海道平均値を上回っています。

中学女子の総合評価は、AとBを合わせた割合が全体の半数近く、さらにCを含めるとで全体の8割程度を占める全国の傾向と類似しています。男子に比較してDとEを合わせた下位層の割合が小さくなっています。

令和4年度 中学2年女子のT得点



令和4年度 中学2年女子の総合評価



*** 平成31(令和元)年度小学5年生と令和4年度中学2年生の比較について**

令和4年度の中学2年生は、平成31年度の小学5年生に本調査を実施しています。男女それぞれの「各種目のT得点」と「総合評価」を比較しました。

(1)各種目のT得点を比較（「T得点」の説明についてはP4を参照）

男子		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び
H31	小学5年	48.6	47.4	49.3	47.4
R4	中学2年	52.3	46.2	48.3	48.2

男子		20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	※ボール投げ
H31	小学5年	46.8	43.7	49.3	50.8
R4	中学2年	44.9	49.1	45.9	46.9

（※ボール投げ：小学生ソフトボール、中学生ハンドボール）

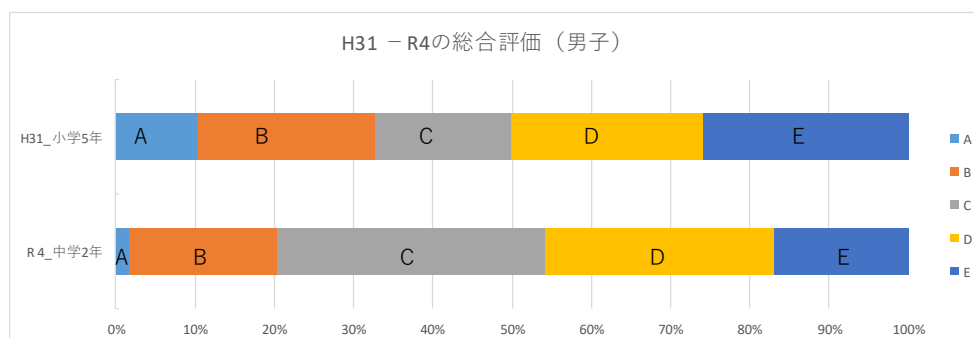
女子		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び
H31	小学5年	46.1	46.6	47.3	50.1
R4	中学2年	52.1	47.9	49.2	50.0

女子		20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	※ボール投げ
H31	小学5年	50.9	44.3	51.5	52.2
R4	中学2年	46.8	50.0	49.8	47.7

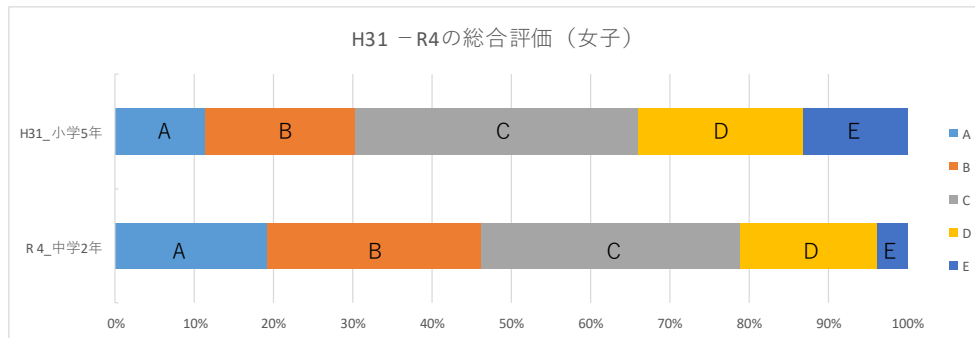
（※ボール投げ：小学生ソフトボール、中学生ハンドボール）

(2)総合評価を比較（「総合評価」の説明についてはP6を参照）

男子		A	B	C	D	E
H31	小学5年	10.3%	22.4%	17.2%	24.1%	25.9%
R4	中学2年	1.7%	18.6%	33.9%	28.8%	16.9%



女子		A	B	C	D	E
H31	小学5年	11.3%	18.9%	35.8%	20.8%	13.2%
R 4	中学2年	19.2%	26.9%	32.7%	17.3%	3.8%



9 体格と肥満に関する調査

体格に関する調査では、小学生は男女ともに身長、体重で全国平均値を上回っています。また体重はともに北海道平均値を下回っています。中学生は男女ともに身長、体重で全国平均値を上回り、女子の体重のみ北海道平均値を下回っています。

肥満傾向児の出現率では、小学校女子、中学校男子において高く、特に中学校男子では全体の2割近い割合に出現率がある状況となっています。中学女子の肥満傾向や痩身傾向は低く、正常範囲の生徒が非常に多い状況にあります。

(1) 小学校

① 体格平均値

		体 格	
		身長 (cm)	体重 (kg)
全 国	男子	139.52	35.51
北海道		140.07	37.45
士別市		140.95	36.26
全 国	女子	141.30	35.37
北海道		141.78	36.54
士別市		141.79	36.07

② 肥満傾向児・痩身傾向児の出現率

		肥満傾向児・痩身傾向児の出現率 (%)		
		肥満	正常	痩身
全 国	男子	14.5%	82.9%	2.5%
北海道		22.2%	75.6%	2.2%
士別市		10.2%	86.4%	3.4%
全 国	女子	9.8%	87.6%	2.6%
北海道		13.8%	83.8%	2.4%
士別市		15.5%	81.0%	3.4%

(2) 中学校

① 体格平均値

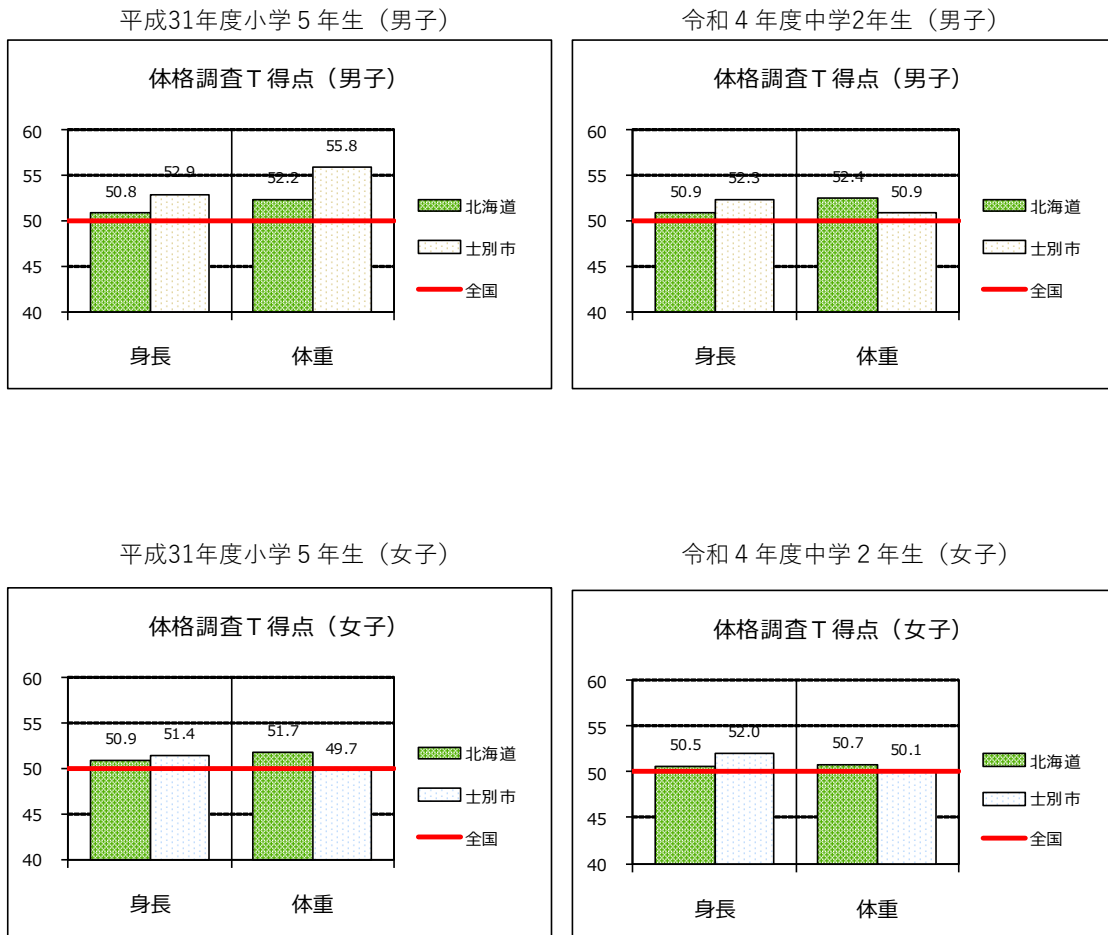
		体 格	
		身長 (cm)	体重 (kg)
全 国	男子	161.05	50.45
北海道		161.92	52.30
士別市		163.05	55.35
全 国	女子	154.92	47.09
北海道		155.20	47.61
士別市		155.98	47.17

②肥満傾向児・痩身傾向児の出現率

		肥満傾向児・痩身傾向児の出現率 (%)		
		肥満	正常	痩身
全 国	男子	11.5%	85.4%	3.2%
北海道		15.5%	81.2%	3.3%
士別市		18.7%	79.7%	1.7%
全 国	女子	7.7%	88.5%	3.8%
北海道		9.4%	86.8%	3.9%
士別市		5.7%	92.3%	1.9%

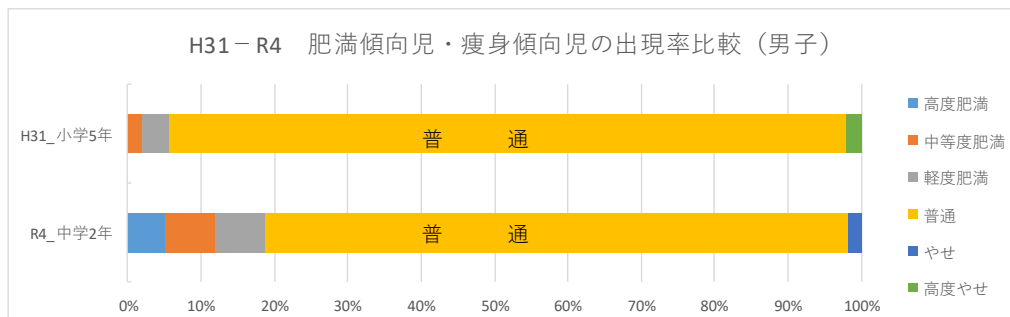
* 平成31(令和元)年度小学5年生と令和4年度中学2年生の比較

(1)体格調査T得点を比較(「T得点」についてはP4を参照)

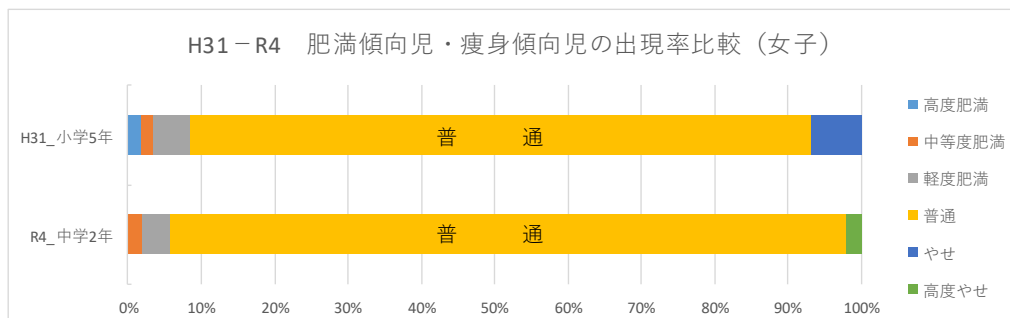


(2)肥満傾向児・痩身傾向児の出現率（％）

男 子	高度肥満	中等度肥満	軽度肥満	普通	やせ	高度やせ
H31 小学5年	0.0%	1.9%	3.8%	92.3%	0.0%	1.9%
R 4 中学2年	5.1%	6.8%	6.8%	79.7%	1.7%	0.0%



女 子	高度肥満	中等度肥満	軽度肥満	普通	やせ	高度やせ
H31 小学5年	1.7%	1.7%	5.1%	84.7%	6.8%	0.0%
R 4 中学2年	0.0%	1.9%	3.8%	92.3%	0.0%	1.9%



10 士別市の運動習慣、生活習慣等に関する調査結果の概要

(1) 児童生徒に対する質問紙調査の概要

- 運動に対する意識等（5項目）
- 生活習慣に対する意識等（4項目）
- 体育・保健体育の授業に対する意識（9項目）

士別市教育委員会では、上記調査項目の中から北海道教育委員会が取り上げて分析した次の9項目について、本市の児童生徒の回答を全国・北海道と比較しました。（各数値はスポーツ庁から配布されたデータを使用しています。）

- ①「運動やスポーツをすることが好き」と回答した北海道の児童生徒の割合は、小中男女いずれも全国平均値よりも高いなか、士別市においては小学男女がともに全国平均値よりも高いものの、中学男女はともに低い状況にあります。

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	69.8%	54.9%	62.1%	44.2%
北海道	72.7%	57.9%	65.5%	46.2%
士別市	71.2%	60.3%	53.4%	39.2%

- ②「運動やスポーツは大切」と回答した北海道の児童生徒の割合については、小中男女いずれも全国平均値よりも高いなか、士別市においては小学女子は全国平均値よりも高いものの、小学男子と中学男女は低い状況にあります。

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	68.7%	59.2%	66.1%	50.7%
北海道	72.8%	64.0%	67.4%	50.8%
士別市	66.1%	67.2%	57.6%	49.1%

- ③「中学校に進んだら（中学校を卒業した後）、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」と回答した北海道の児童生徒の割合は、小学男女および中学男子は全国平均値よりも高く、中学女子は全国平均値よりやや低い結果となりました。士別市においては小学男子および中学女子が高く、小学女子および中学男子は低い状況にあります。

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	63.2%	54.8%	56.5%	41.7%
北海道	65.5%	57.5%	57.9%	41.3%
士別市	67.8%	53.4%	48.3%	45.3%

- ④「体育（保健体育）授業以外における1週間の総合運動時間が60分未満」と回答した北海道の児童生徒の割合は、小学男女は全国平均値より低く、中学男女は高いなか、士別市においては、小学男女が低く、中学男女は高い状況にあります。

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	8.8%	14.6%	7.8%	17.9%
北海道	8.5%	12.9%	10.9%	21.7%
士別市	6.8%	10.3%	11.6%	18.9%

- ⑤「平日（月～金曜日）に学習以外で、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ている時間が1時間未満」と回答した北海道の児童生徒の割合は、小中男女ともに全国平均値よりも低いなか、士別市においては、小学男子と中学女子が高く、小学女子と中学男子が低い状況にあります。

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	14.6%	21.0%	5.9%	7.8%
北海道	11.3%	16.6%	4.6%	6.5%
士別市	20.8%	18.0%	1.7%	13.5%

- ⑥「体育（保健体育）の授業は楽しい」と回答した北海道の児童生徒の割合は、小中男女ともに全国平均値よりも高いなか、士別市においては小学男女および中学男子は全国平均値より低く、中学女子は高い状況にあります。

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	73.4%	59.3%	57.2%	41.9%
北海道	74.7%	59.7%	60.9%	42.7%
士別市	68.4%	56.9%	52.5%	43.1%

- ⑦体育（保健体育）の授業で、目標（ねらい・めあて）を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することが「いつもある」と回答した北海道の児童生徒の割合は、小中男女いずれも全国平均値よりも低いなか、士別市においては小学男女および中学女子は全国平均値より高く、中学男子は低い状況にあります。

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	32.1%	26.1%	26.5%	20.9%
北海道	31.8%	24.2%	24.0%	17.5%
士別市	40.7%	32.8%	13.6%	24.0%

⑧体育（保健体育）の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりする学習で「できたり、わかったり」することが「いつもある」と回答した北海道の児童生徒の割合は、小中男女いずれも全国平均値よりも低いなか、士別市においては小学男子は全国平均値よりも低く、小学女子および中学男女は高い状況にあります。

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	35.4%	36.0%	32.3%	30.8%
北海道	34.9%	34.3%	30.7%	28.1%
士別市	33.9%	41.4%	41.7%	37.7%

⑨体育（保健体育）の授業で、ICTを使った学習をすることで「できたり、わかったり」することが「いつもある」と回答した北海道の児童生徒の割合は、小学男女は全国平均値よりも低く、中学男女は全国平均値よりも高いなか、士別市においては逆に小学男女は全国平均値よりも高く、中学男女は全国平均値よりも低い状況にあります。

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子
全 国	14.9%	12.8%	11.6%	8.1%
北海道	14.0%	11.8%	12.4%	8.5%
士別市	15.3%	25.9%	8.3%	3.8%

(2)各小・中学校に対する質問紙調査の概要

【小・中学校共通】

- 体力向上の取組の状況（10項目）
- 体育・保健体育の授業の状況（11項目）
- 体力向上に関する意識（2項目）
- 学校の組織体制について（2項目）
- 新体力テストの実施状況（1項目）

【小学校のみ】

- 体育専科教員の配置状況（1項目）

【中学校のみ】

- 学校の部活動について（5項目）

士別市教育委員会では、上記調査項目の中から北海道教育委員会が取り上げて分析した次の11項目について、本市の学校回答と比較しました。（ただし、士別市は小学校6校、中学校4校のため参考値と押さえています。）

- ①北海道の「児童（生徒）の体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を設定している学校」の割合は、小・中学校いずれも全国平均値より高くなっています。士別市においては10校中9校で目標を設定しています。

	小学校	中学校
全 国	80.5%	72.3%
北海道	94.6%	87.0%
士別市	83.3% (5/6校)	100% (4/4校)

- ②北海道の「体育（保健体育）の授業以外で全ての児童（生徒）の体力・運動能力の向上に係る取組を行っている学校」の割合は、小・中学校いずれも全国平均値より高い結果となりました。士別市においては全ての学校で取組を行っています。

	小学校	中学校
全 国	77.6%	46.5%
北海道	90.6%	71.7%
士別市	100%	100%

- ③北海道の「体力・運動能力の向上に反映させるために、校内外の研修や研究会のような取組に積極的に参加している学校」の割合は、小学校は全国平均値よりも低く、中学校は高い結果となりました。士別市においては10校中9校で積極的に参加しています。

	小学校	中学校
全 国	67.8%	62.9%
北海道	67.4%	66.3%
士別市	83.3%	100%

- ④北海道の「運動・スポーツが苦手（嫌い）な傾向がある児童（生徒）向けの取組、または能力差に応じた取組を行っている学校」の割合は、小・中学校いずれも全国平均値よりも高いところであり、士別市において10校中9校で取組を行っています。

	小学校	中学校
全 国	51.9%	63.0%
北海道	63.1%	69.6%
士別市	83.3%	100%

- ⑤北海道の「授業の冒頭で、その授業の目標（めあて・ねらい等）を児童（生徒）に示す活動を取り入れている学校」の割合は、小学校では全国平均値より高く、中学校は同等の結果となりました。士別市においては10校中9校で取り入れています。

	小学校	中学校
全 国	97.7%	99.0%
北海道	98.1%	99.0%
士別市	100%	100%

- ⑥北海道の「授業の最後に、その授業で学習したことを振り返る活動を取り入れている学校」の割合は、小・中学校いずれも全国平均値より高いなか、士別市においては全ての学校で取り入れています。

	小学校	中学校
全 国	94.4%	97.1%
北海道	96.7%	97.5%
士別市	100%	100%

- ⑦北海道の「授業で児童（生徒）同士が助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れている学校」の割合は、小・中学校いずれも全国平均値より低いなか、士別市においては全ての学校で取り入れています。

	小学校	中学校
全 国	97.3%	97.7%
北海道	96.7%	97.3%
士別市	100%	100%

- ⑧北海道の「授業で、全学年において児童（生徒）同士で話し合う活動を取り入れている学校」の割合は、小・中学校いずれも全国平均値より高い状況となりました。士別市においては10校中9校で取り入れています。

	小学校	中学校
全 国	59.6%	88.9%
北海道	74.4%	91.4%
士別市	83.3%	100%

- ⑨北海道の「授業でICTを週に1時間以上活用している学校の割合は、小・中学校いずれも全国平均値より高い状況となりました。士別市においては小学校で6校中3校および中学校全てで週に1時間以上活用しています。

	小学校	中学校
全 国	30.8%	44.0%
北海道	39.6%	60.2%
士別市	50%	100%

- ⑩北海道の「健康三原則（運動、食事、休養および睡眠）の大切さを適宜伝えている学校」の割合は、小・中学校いずれも全国平均値より高い状況となりました。士別市においては全ての学校で適宜伝えています。

	小学校	中学校
全 国	94.9%	97.3%
北海道	98.8%	98.2%
士別市	100%	100%

- ⑪北海道の「新体力テストを調査対象の学年以外でも実施している学校」の割合は、小・中学校いずれも全国平均値より低い結果となりました。士別市においては全ての学校において調査対象の学年以外でも実施しています。

	小学校	中学校
全 国	86.8%	94.1%
北海道	82.9%	98.1%
士別市	100%	100%

11 まとめと課題

士別市では、体育（保健体育）の学習においても、全ての小・中学校において「授業の冒頭で、その授業の目標」を提示し「授業の最後に、その授業で学習したことを振り返る」活動を行うという基本的な取組を継続するとともに、多くの調査項目で全ての学校が取組を実施しています。また、教育委員会は、これまで地域学校協働活動として「水泳・スキー授業にサポーターを派遣した学校体育への支援」や「少年団活動や部活動への支援（地域移行への検討を含む）」、「本市に合宿している実業団の協力による陸上教室」などを実施してきており、こうした取組が児童生徒の運動能力の向上に結びついているものと考えられます。

本年度は総合結果である体力合計点は、小学男女で全国平均値を超えましたが、中学男女はともに超えることができませんでした。本年度の中学2年生は3年前の小学5年生時の全国調査時のデータから、男子で5項目（上体起こし、長座体前屈、20mシャトルラン、立ち幅とび、ボール投げ）、女子で4項目（反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とび、ボール投げ）が下がっています。また、中学男子の体型が「ふつう」が減り「肥満傾向」が増えていることも、コロナ禍3年間の影響が出ていると考えています。

12 今後の対応

各学校においては、昨年度に引き続き、これまで実施してきた様々な体力・運動能力の向上策を継続することを軸に、自校の本年度調査結果を分析し、新たな目標の設定や実践へとサイクル化し、改善に生かすことが必要です。

一方、教育委員会としては、これまでの学校支援を継続・発展させるとともに、児童生徒の運動の日常化を図るため、家庭との連携を強化することが必要と考えます。また、令和5年度からの「休日の地域部活動への移行」を見据え、スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブをはじめとする地域での学校支援の取組を進めて参ります。次頁に、具体策の一例を示します。

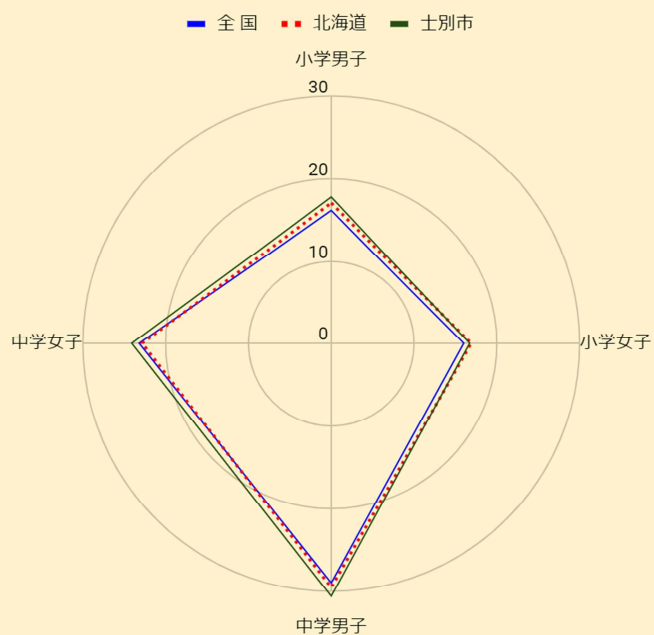
- (1) 他教科と同様に体育（保健体育）の授業において、「楽しい、できる（わかる）学習」や「主体的・対話的で深い学び」への授業改善に向けた教職員研修（スキルアップセミナー等）を継続的に実施します。
- (2) 外部人材を活用した学校支援事業（水泳・スキー・部活動等）や実業団の協力による「陸上教室」を継続的に実施します。
- (3) 中学校部活動においては、合同チームや拠点校方式など、希望する競技・種目に取り組むことのできる機会づくりに今後も努めるとともに、今後の部活動のあり方を見据え、スポーツ協会をはじめ、総合型地域スポーツクラブや各競技団体と連携を図り、小中学生には高校への接続（連続性）も意識しながら、青少年としての今後のスポーツ活動のあり方を検討します。
- (4) 本市の「健康・スポーツ都市宣言」も踏まえ、本市における各種スポーツイベントへの家族ぐるみでの参加推進および日常的なスポーツ活動や運動習慣の啓発のもとで、市民皆スポーツの実現を目指します。
- (5) 本市における「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果分析の概略を本市のホームページ上に公表し、各種取組を進めるなかで、体力・運動能力の向上や日常の運動習慣の定着を図ります。

新体力テストの種目及び実施方法等		参考 2
握 力	<p>直立の姿勢で両足を左右に開き、腕を自然に下げ、握力計を身体や衣服に触れないようにして力いっぱい握りしめる。 右左交互に2回ずつ実施し、左右おのおののよい方の記録を平均する。</p>	
上体起こし	<p>マット上で仰臥姿勢をとり、両手を軽く握り、両腕を胸の前で組む。「始め」の合図で、仰臥姿勢から、両肘と両大腿部がつくまで上体を起こし、すばやく開始時の仰臥姿勢に戻す。 30秒間、前述の上体起こしをできるだけ多く繰り返す。</p>	
長座体前屈	<p>被測定者は、両脚を両箱の間に入れ、壁に背・尻をぴったりとつけて長座姿勢をとる。肩幅の広さで両手のひらを下にして、手のひらの中央付近が、両箱の間にある厚紙の手前端にかかるように置く。 被測定者は、両手を厚紙から離さずにゆっくりと前屈して、箱全体を真っ直ぐ前方にできるだけ遠くまで滑らせ、最大に前屈した後に厚紙から手を離す。2回実施してよい方の記録をとる。</p>	
反復横とび	<p>中央ラインをまたいで立ち、「始め」の合図で右側のラインを越すか、または、踏むまでサイドステップし、次に中央ラインに戻り、さらに左側のラインを越すか、または、触れるまでサイドステップする。 20秒間繰り返し、それぞれのラインを通過することに1点を与える(右、中央、左、中央で4点になる)。2回実施してよい方の記録をとる。</p>	
20mシャトルラン	<p>電子音にあわせて20m先の線に向けて走り出し、次の電子音が鳴るまでに足が線を越えるか、触れたら、その場で向きを変える。この動作を繰り返す。 電子音の間隔は、初めはゆっくりであるが、約1分ごとに間隔が短くなる。設定された速度を維持できなくなり走るのをやめたとき、または、2回続けてどちらかの足で線に触れることができなくなったときに、テストを終了する。線に触れた回数を記録とする。</p>	
持久走	<p>男子は1500m、女子は1000mとする。スタートの合図からゴールライン上に胸が到達するまでに要した時間を計測する。スタートはスタンディングスタートで行い、実施は1回とする。</p>	
50m走	<p>スタートの合図からゴールライン上に胸が到達するまでに要した時間を計測する。スタートはスタンディングスタート(中学生はクラウチングスタート)で行い、実施は1回とする。</p>	
立ち幅とび	<p>両足を軽く開いて、つま先が踏み切り線の前端にそろうように立ち、両足で同時に踏み切って前方へとぶ。2回実施してよい方の記録をとる。</p>	
ソフト(ハンド)ボール投げ	<p>投球は地面に描かれた円内(直径2m)から行う。投球中または投球後、円を踏んだり、越したりして円外に出てはならない。小学生はソフトボール1号、中学生はハンドボール2号を使用する。2回実施してよい方の記録をとる。</p>	

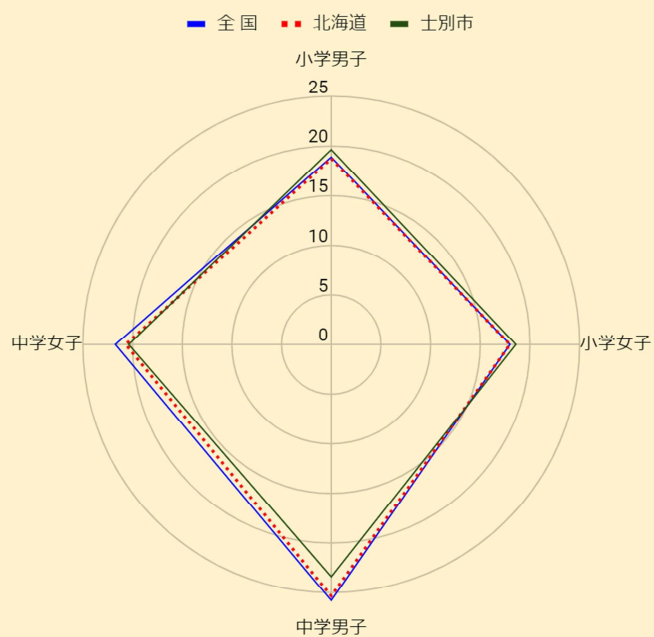
※中学校は持久走か20mシャトルランのどちらかを選択する。

参考資料 2

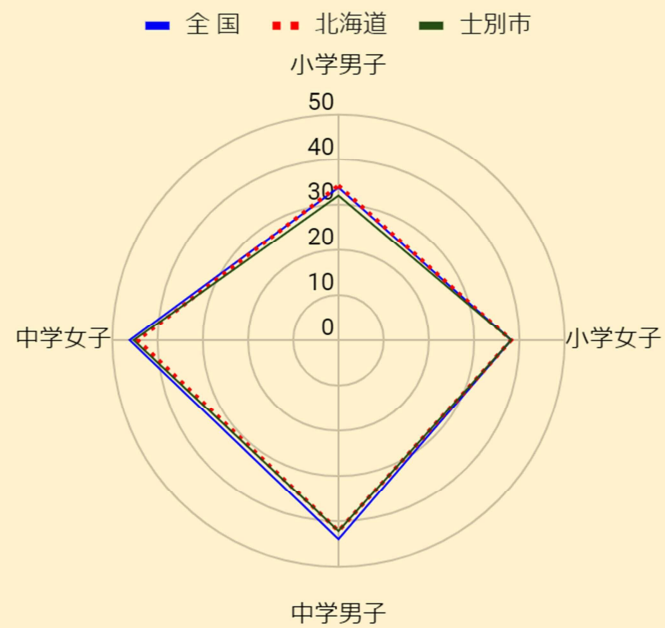
握力 (kg)



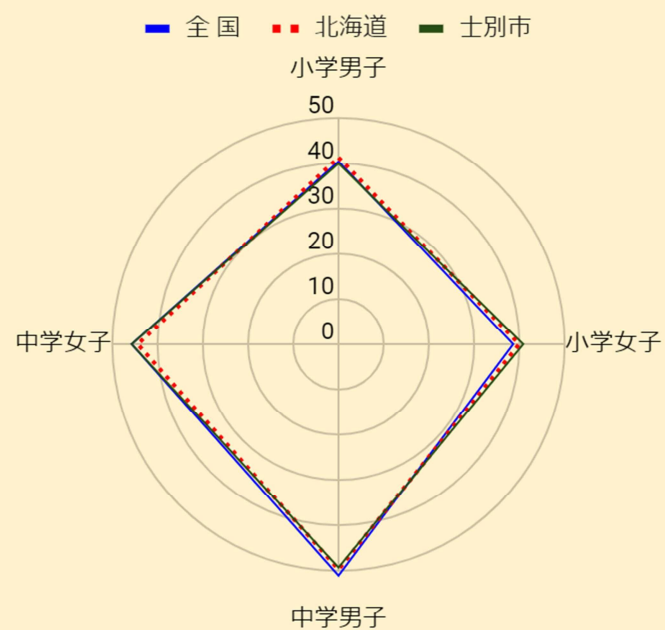
上体起こし (回)



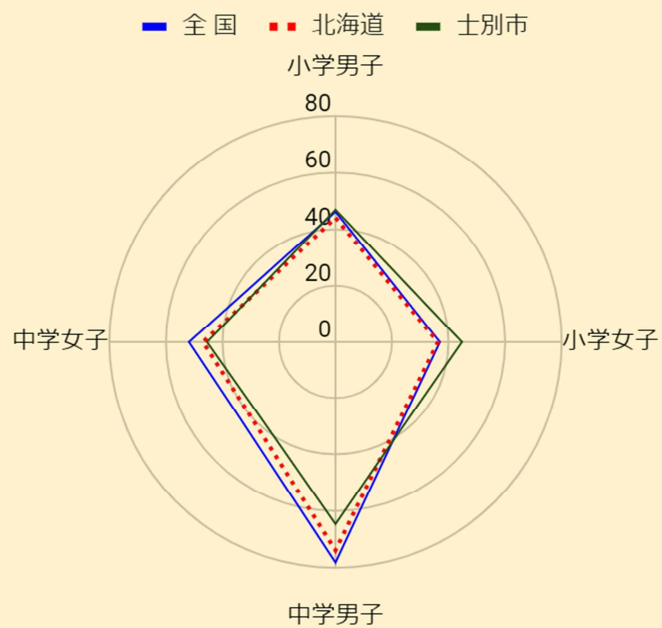
長座体前屈 (cm)



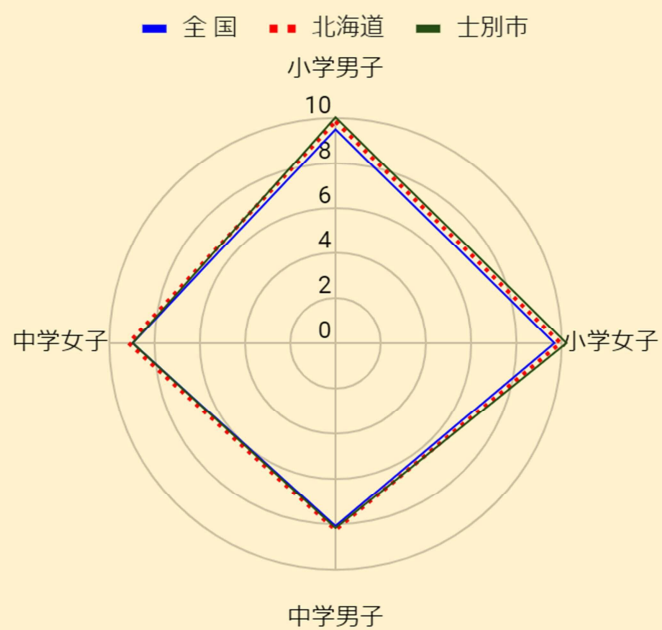
反復横とび (点)



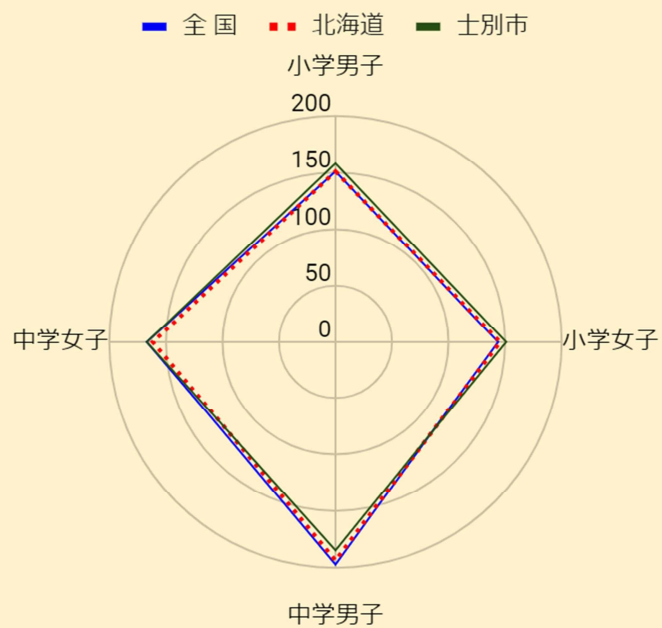
20mシャトルラン (回)



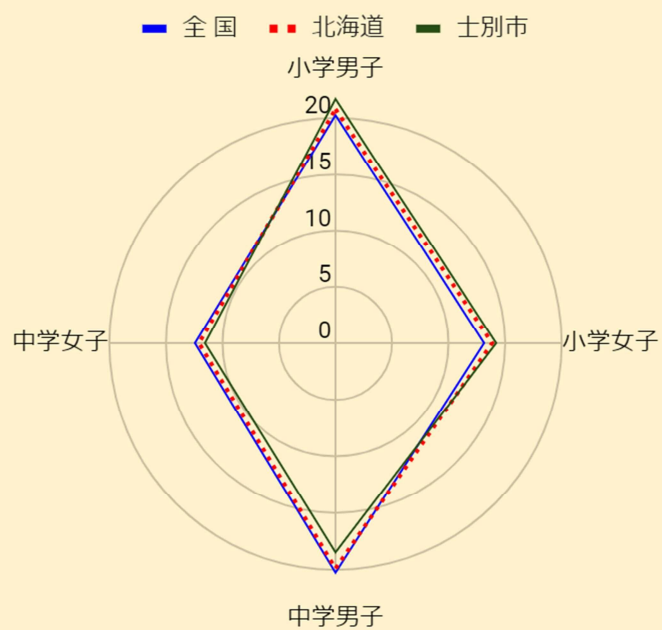
50m走 (タイム：秒)



立ち幅とび (cm)



ボール投げ (m)



体力合計点 (点)

